

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190400317		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里 グループホーム とみおか		
所在地	札幌市手稲区富丘2条14丁目11-15		
自己評価作成日	平成24年11月29日	評価結果市町村受理日	平成25年1月9日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&JigyosyoCd=0170401798-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成24年12月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

静かな住宅街の中にある環境の中、年々地域との関わりを深めつつ、利用者様が穏やかに過ごされている。年々各方面からの実習生の受け入れが増えており、孫と同じ世代とのふれあいにより適度な刺激が与えられる利点が見られているのと、職員にとっては介護技術や関わり方を第三者からの視点でとらえられることで、日頃のケアの振り返りを行える機会がもてることができ、ケアの向上に努めることができている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

札幌市郊外の幹線道路近くの住宅地にあり、徒歩圏内に公園やスーパーマーケット、ドラッグストアがあるなど散歩や買物に便利な環境にある。建物は木造2階建てで全体が広くて明るく、洗面台やトイレ、浴室は使い易く、エレベーターも設置されている。職員の基本理念への理解が深く、出勤時に毎回共用空間に掲げられた理念を確認し、日々のケアに活かしている。地域との付き合いが盛んで、町内会の総会では、管理者がグループホームと認知症について話をして町内での理解を深めている。運営推進会議にも町内会の役員3名の出席を得ている。道路を挟むと別の町内会であるが、事業所主催のとみおか祭りには、気軽に声かけて多くの方々とジンギスカンを楽しんでいる。地域ボランティアにバルーンアートを披露してもらったり近所の幼稚園の運動会を見学させてもらうなど交流が深まっている。馴染みの人や場との関係継続の支援に力を入れており、利用者の知人・友人とは電話や手紙を通じて交流してもらっている。職員が利用者と一緒に手紙の宛名を書いたり、学生時代の友人が送ってくれた誕生日プレゼントのお返しを考え買いに行ったりしている。家族の協力で、お墓参りやお正月の外泊も行っている。熱心な管理者の指導の下に職員は毎日のケアに取り組んでおり、利用者もゆったりとした生活を楽しんでいる。

V. サービスの成果に関する項目(1Fアウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
	○			○	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者様ひとり一人の尊厳を守りながら、安心してお過ごし頂けるよう支援している。職員間で理念の意義を確認しながらサービスに努めている。	全職員で作り上げた基本理念を玄関と1・2階の共用空間に掲示している。共用空間の理念の横にその日の出勤者の写真が掲示しており、職員は出勤時に自分の写真と理念の内容を確認しており、全員が理念を深く理解している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の活動にも参加させていただきながら、交流を深めている。ホーム敷地内の草刈りのお手伝いや町内会の資源回収への協力も行っている。	町内会の総会に管理者が出席し、グループホームと認知症について話を理解してもらい、事業所主催のとみおか祭りには地域の方を招待している。また、職員の一部が町内会の「ボランティアゴミ袋」を持参し、ゴミを拾いながら出勤している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の実施により、情報の交換を行っている。地域の交流会において認知症の方への支援や理解についても向き合いながら親睦を深めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、状況報告や意見の収集を行いながら、良い支援につなげることができるよう話し合いサービスの向上に活かせるよう努めています。	会議は、毎回3名の町内会役員と、地域包括支援センター職員、家族等の参加を得て2か月に1度行われており、行事や活動内容について話をし、意見を聞いている。消防署の職員に話をしてもらうこともある。議事録は作成しているが、参加者のみにしか配布していない。	議事録を全家族に配布するか、事業所内の見易い場所に掲示して参照を促すことを期待したい。また、2か月に1度家族宛に配布する広報に運営推進会議の日程だけでなく、出席できない家族の意見を募集する文面を付け加えるなど、多くの家族に関心をもってもらえるよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市や手稲区の会議に参加、情報交換を行い、助言、貴重なアドバイスをいただきながら、より良いサービスが行えるよう取り組んでいる。	市・区の管理者会議に毎回参加して意見交換している。また、管理者が、市の担当者とコミュニケーションを図るために市役所に直接訪問し情報交換している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてや高齢者の尊厳について、事業所での内部研修やマニュアルで互いにケアを振りかえりながら支援している。夜間以外は、施錠せずに自由に出入りができるようにしている。	先月末に、身体拘束に関わる「記録」「取扱要領」「手順」などを網羅した「身体拘束マニュアル」を法人から配布されて間もないため、職員への周知はまだ行われていない。	「身体拘束マニュアル」の内容を全職員に周知するために、早急に事業所内で勉強会を行うことを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修の実施、外部研修へ参加し、職員同士情報や意見の交換をしながら、日常のケアを振り返りながら個々の意識を高めるよう努めている。		

ふれあいの里 グループホーム とみおか

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に権利擁護制度を利用されている方がいないため、内部研修で制度についての理解していくよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、可能な限りご本人様にも交えて相談に応じながら説明をさせていただき、互いの思いやすれ違がないよう納得いただいた上、契約をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先に意見箱を設置し、面会時にも利用者様・ご家族の意見に耳を傾けながら、気軽に声をかけてもらえるような雰囲気作りに努めている。面会が困難なご家族様にも手紙や電話等で近況の報告をさせていただいている。	家族の訪問が頻繁にあり、その都度、担当者あるいはリーダーが対応し、その後に必ず管理者が話をしている。また、法人で毎年アンケートを実施して家族の意見を聞いている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	互いに意見の交換やケアの振りかえりをしながら、耳を傾け意見を取り入れることにより、向上心をもてるような環境づくりに努めている。	毎月1回、ユニット会議とカンファレンスを行い、活発に意見交換している。また、年2回、管理者が職員一人ひとり面談し意見を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回定期的に個別面談を実施。問題に直面した際は、その都度情報の収集、意見交換を行いながら検討している。職員全員で関わる意識を持ちながら支援できるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々に適した研修への促し、職員全員がそれぞれ研修に参加できるよう調整し、研修報告を含め、全員で共有できるよう取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会や交流などを通じて、互いに学べる環境できる機会を多くもちながら、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の相談時に可能な限り、直接本人から不安や要望などの声に耳を傾け、職員間で把握した上で、安心してサービスが受けられるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前にいただく情報だけではなく、御家族様の立場としての願いや意見を汲み取り、これからの生活にあたり出来ること、困難なことなど話し合い理解していただきながら信頼づくりができるように心掛けています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に御本人、ご家族様から思いや意見を聞き、これからのサービス利用を見極めながら受け入れられる支援の対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の生活歴や生活史を理解していきながら、日々の変化に気づき、寄り添いながら穏やかにお過ごしいただけるよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や、おたよりなどで、日常生活の様子を伝えていきながら、共に過ごしいただく時間をもち、つながりが途切れぬよう共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	可能な限り、馴染みの知人に来訪や電話などしていただけるよう努めている。手紙や誕生日のプレゼントなど互いに交流を持ちながら関係を途切れないよう、支援に努めている。	知人・友人とは電話や手紙を通じた交流が多く、職員と一緒に手紙の宛名を書いたりしている。学校時代の友人から誕生日にプレゼントが送られてくるので、利用者と一緒にお返しの品物を考え買い物に行ったりしている。また、家族の送迎で、お墓参りや正月の外泊などを行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	互いの関係性を把握しながら、共通して楽しんでいたような行事や話題などを支援できるよう配慮しています。月に1度ユニットごとの入居者様同士の関係を保つため月に1度「お茶会」の場を設けています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も、その後のご本人様の様子を伺ったり、要望があれば随時相談にも応じています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の関わりの中で、ご本人の希望や、思いを汲み取れるよう心掛けています。また、ご本人が意思疎通が困難な方に対しても、御家族様の思いや意向を踏まえながらお互いに向き合えるよう努めている。	前年の外部評価で取り組み事項であった、個人別の記録の充実については、利用者・家族の意見を聞きながらセンター方式を活用して「心身の情報シート」を作成し、情報の蓄積を行った。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や生活史など書面の情報だけではなく、きっかけがあれば随時御家族様情報をいただきながら、職員間で共有しながら個々にあったサービスが提供できるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送り、介護記録などで、現状の把握・対応を職員間で常に共有し合い、心身の状態や変化にその都度対応できるよう努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活状況や職員、ご家族様からの情報の収集により、個々にあった介護計画を職員間で検討しながら作成している。	毎月1回、全職員の事前記録をもとに利用者一人ひとりのカンファレンスを行い、3か月毎にモニタリングして介護計画を見直している。日々の介護記録も介護計画を意識して記載されている。遠方の家族には、介護計画を送付後、電話や手紙で確認し署名捺印を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気づきや変化など職員間で送りもれがないよう徹底しており、特変などは介護記録に色分けをし、見逃しのないよう注意している。日々の申し送りやカンファレンス時に検討しながら介護計画に反映するよう努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所としてできる支援、困難な支援についてご本人、御家族様と相談しながら、可能な限り希望されるサービスに対応できるよう心掛けております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会、近隣の住民、地域ボランティア、地域包括支援センターからの協力を受けながら支援に努めています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関体制の他、個々に応じた受診にも対応している。入居前より関わりのあったかかりつけ医に往診している利用者もおられる。	協力医療機関の内科と神経内科の医師による往診が毎週あり、利用者は2週間に1度診察を受けている。また、従来のかかりつけ医の受診も自由である。通院は家族対応だが、都合が悪い場合は職員が支援している。医療記録は「受診ノート、定期、健康管理(医療連携)記録」で全職員が共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関により、日常の健康管理や医療活用の支援を行っている。気になる症状や不安際には訪問看護師に電話にて相談、アドバイスをいただいている。特変時には24時間体制で主治医と連絡をとりながら対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関、御家族様と情報を共有しながら随時連絡をとり、入退院時の対応が速やかに行えるよう心掛けています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の際重度化や終末期に向けたあり方について、本人、ご家族様の意向について協議していき、共に考えながら説明しています。医療行為が必要となり、ホームでの入居が困難と予測された場合でも、相談に応じ共に考えながら支援していけるよう心掛けています。	利用開始時に「入居者様が重度化した場合の対応に係る指針」を利用者・家族に示して説明し、署名捺印を得ている。状況が変化した場合、利用者の状況に応じて、連携できる医療行為可能な施設や機関の情報を収集・提供して判断を仰いでいる。現状では、看取りは行っていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修の実施や、全職員が救命講習会の参加をし、急変時や事故発生に備え冷静に対応できるよう心掛けています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方々の協力体制は運営推進会議を通じて話し合われているが、避難訓練の実施や災害時の対応についてはマニュアルを作成し、対応できるよう心掛けています。	消防署の協力の下に年2回の昼・夜間対応の避難訓練を行い、町内会役員の参加を得ている。救急救命訓練も定期的に行っている。災害時の備品の準備は法人で検討中であるが、事業所独自で最低限必要な物を用意している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや対応など個々の尊厳を損なわぬよう配慮し、職員が利用者の立場に置き換えながら、プライバシーを損ねない日常生活を送れるよう心掛けています。	利用者の呼びかけは苗字に「さん」付けとしており、より親しみやすい呼びかけをする場合は家族の許可を得ている。個人記録等の保管や記録はスタッフルームで行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が何を伝えたいか本人の声に耳を傾け、会話やしづさから思いに気づけるよう心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	介護者側の都合ではなく、本人の能力に応じた選択の幅を広げ、介護者が待つ姿勢を大切にしている。個々のペースに配慮しながら互いの信頼関係を築けるよう努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々のおしゃれ心を大切にしながら、その人らしい身だしなみを整える支援をいたします。		

ふれあいの里 グループホーム とみおか

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な限り、個々の役割として調理の補助、後片付けなど職員と共に作業をお願いしながら協力いただいている。	下ごしらえや配膳、食器洗い、食器拭きなど、利用者の体調や身体能力に応じて手伝ってもらっている。事業所の畑で採れた野菜を提供することもある。食事中は好みの音楽をかけ、職員も同じ食事を一緒にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は専任の管理栄養士が作成している。医師の指示のもと塩分、水分の制限がある方など個々により味付けなど調整を行いながら対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご本人の能力に応じて、毎食後口腔ケアの支援、義歯の洗浄も行っている。また、週1回訪問歯科の診療があり、職員が口腔ケアの指導を受け入居者の口腔ケアに生かしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄間隔に合わせながら声掛け、トイレ誘導を行いながら見守っている。排泄チェック表に記入することにより本人のサイクルを理解し、支援に役立てている。	排尿・排便チェック表にてパターンを把握して、羞恥心に配慮しながらさりげなく誘導している。トイレで排泄できる方が多く、その日の状況や身体能力に応じて介助や見守りを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表により把握していることにより、水分摂取量にも気を配りながら便秘の予防に取り組んでいる。調整が必要な方には医師の指示のもとにより下剤の調整を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴表により、個々の体調、希望に沿って入浴していただいている。入浴を拒否される場合も声掛けやタイミングにより、入浴していただけるよう心掛けている。	毎日入浴が可能で、希望に沿って各利用者が週2回以上入浴している。午後の時間が中心だが、往診がある場合は午前中に行っている。拒否がある時は、上手に誘導して入浴を促している。近くの日帰り温泉に出かける方もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	職員が誘導するのではなく、ひとり一人の就寝時間に沿って気持ちよく休んで頂けるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局より処方されている処方箋は、職員全員が把握し、副作用についてもその都度周知している。個々の用量についても、表で示しており、服薬の際、確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人が張り合いのもてる役割を見つけ、共に喜びのある日々を過ごしていただけるよう模索しながら支援を行っている。		

ふれあいの里 グループホーム とみおか

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	可能な限り、希望に沿いながら職員と共に買い物をする機会を持てるよう努めている。外出が困難な方にも楽しみが持てるよう年間行事に取り入れながら支援に努めている。	気候の良い時期は毎日のように近くの公園や保育園、商店の庭の花畑を散歩したり、スーパーマーケットやドラッグストアに買い物に出かけている。冬場でも事業所前のベンチで外気浴をしている。年間行事では、花見や動物園、朝里川温泉、バイキングレストランなどへの外出を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は基本的にホームで行っている。御本人や、御家族様より希望がある際には、書面に記入していただき、本人に管理をお願いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の対応には随時対応している。ご家族様や知人との手紙のやりとりの支援も行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関から居間までの空間が広々としており、どこからも見渡せるようになっている。居室の間にトイレがあり、入居者が安心して移動できるような造りになっている。	共用空間は広く開放的で、キッチンから全体が見渡せる。壁には季節の装飾や利用者の写真、手作りの作品などが飾られ、にぎやかな雰囲気をつくっている。新聞やレクの品物もさりげなく置かれている。トイレは広くて数も多く、浴室は窓があって明るい。床暖房で温度、湿度なども調整されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースで個々が居心地良く過ごせるよう家具の配置や装飾の工夫を行い、環境作りに努めています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人の馴染みの家具や思い出の品など持ち込んで頂くことにより、安心してお過ごしいただけるよう居室内の装飾の工夫も行っている。	居室には利用者が自由にテレビやたんす、家族の写真など馴染みの品物を持ち込むことができ、安心して過ごせる場所となっている。壁にもカレンダーやポスターなど利用者が自由に飾り付けをすることができている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーに対応しながら、入居様が安全に移動できるよう各所に手すりを設置し、トイレ内も車いすが使いやすい作りとなっている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190400317		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里 グループホーム とみおか		
所在地	札幌市手稲区富丘2条14丁目11-15		
自己評価作成日	平成24年11月29日	評価結果市町村受理日	平成25年1月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「1F ユニット」に同じ

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&JigyosyoCd=0170401798-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成24年12月11日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(2Fアウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者様ひとり一人の尊厳を守りながら、安心してお過ごし頂けるよう支援している。職員間で理念の意義を確認しながらサービスに努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の活動にも参加させていただきながら、交流を深めている。ホーム敷地内の草刈りのお手伝いや町内会の資源回収への協力も行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の実施により、情報の交換を行なっている。地域の交流会において認知症の方への支援や理解についても向き合いながら親睦を深めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、状況報告や意見の収集を行いながら、良い支援につなげることができるよう話し合いサービスの向上に活かせるよう努めています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市や手稲区の会議に参加、情報交換を行い、助言、貴重なアドバイスをいただきながら、より良いサービスが行えるよう取り組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員については内部研修を実施しながら学ぶことにより正しく理解している。入り口にはセンサーチャイムが取り付けられ施錠しない工夫をしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員が内部研修、外部研修に参加し虐待防止を遵守している。		

ふれあいの里 グループホーム とみおか

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在対象者がいないために、活用できないが、研修を行いながら理解を深めていくよう心掛けています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、可能な限りご本人様にも交えて相談に応じながら説明をさせていただき、互いの思いやすれ違がないよう納得いただいた上、契約をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先に意見箱を設置し、面会時にも利用者様・ご家族の意見に耳を傾けながら、気軽に声をかけてもらえるような雰囲気作りに努めている。面会が困難なご家族様にも手紙や電話等で近況の報告をさせていただいている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	互いに意見の交換やケアの振りかえりをしながら、耳を傾け意見を取り入れることにより、向上心をもてるような環境づくりに努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回定期的に個別面談を実施。問題に直面した際は、その都度情報の収集、意見交換を行いながら検討している。職員全員で関わる意識を持ちながら支援できるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々に適した研修への促し、職員全員がそれぞれ研修に参加できるよう調整し、研修報告を含め、全員で共有できるよう取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会や交流などを通じて、互いに学べる環境できる機会を多くもちながら、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に、御家族様に基本情報や、センター方式のシートに記入していただき、情報を得ながら、その方を知ることにより、ケアプランに反映しニーズに答えることが出来るよう努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始より、御本人、御家族様よりアセスメントを行い、必要とされている支援を見極め良い関係づくりができるよう努めています。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の時点で、必要とされるサービスを見極めると共に職員同士で周知、検討している。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御本人の希望や要望をアセスメントをしていきながら暮らしの中で人生の先輩から学ばせて頂く姿勢を常に持ち支え合う関係ができるよう努めている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時には、御家族との話しやすい環境作りに努め、行事への参加を呼び掛けるなど、共に支えていく関係作りに努めている。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人やご家族様の希望に沿いながら知人、友人の方々が来訪しやすい環境作りに努めたり、可能な限り馴染みの場所への外出にもご協力いただいている。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士がお互いに良い関係を築けるよう、出来ることを一緒に協力しながら行って頂けるよう支援している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も、その後のご本人様の様子を伺ったり、要望があれば随時相談にも応じています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりを通して、個々の思いを汲み取るよう支援している。本人の立場にたったケアができるよう心掛けている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御本人やご家族様より生活歴や馴染みの暮らしを職員で把握し、ケアに生かせるよう心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の出来ること、出来ないことを見極めながら個別の支援に対応している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個々の担当者がモニタリング・アセスメントに関わったものを職員全員が目を通し、意見やアイデアをまとめながら介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員は常時ケアプランを閲覧し情報の共有や実践に生かしている。変更事項や特変時の際は、日々の申し送りやカンファレンスで話しあいながら見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所としてできる支援、困難な支援についてご本人、御家族様と相談しながら、可能な限り希望されるサービスに対応できるよう心掛けております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会、近隣の住民、地域ボランティア、地域包括支援センターからの協力を受けながら支援に努めています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関体制の他、個々に応じた受診にも対応している。入居前より関わりのあったかかりつけ医に往診している利用者もおられる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関により、日常の健康管理や医療活用の支援を行っている。気になる症状や不安際には訪問看護師に電話にて相談、アドバイスをいただいている。特変時には24時間体制で主治医と連絡ととりながら対応している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関、御家族様と情報を共有しながら随時連絡をとり、入退院時の対応が速やかに行えるよう心掛けています。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際重度化や終末期に向けたあり方について、本人、ご家族様の意向について協議していき、共に考えながら説明しています。医療行為が必要となり、ホームでの入居が困難と予測された場合でも、相談に応じ共に考えながら支援していけるよう心掛けています。			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修の実施や、全職員が救命講習会の参加をし、急変時や事故発生に備え冷静に対応できるよう心掛けています。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方々の協力体制は運営推進会議を通じて話し合われているが、避難訓練の実施や災害時の対応についてはマニュアルを作成し、対応できるよう心掛けています。			
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者ひとり一人が人生の先輩であることを常に念頭におきながら声掛け、支援していくよう努めている。個人情報の取り扱いにも注意を払っている。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	御本人の希望や決定を可能な限り支援している。御本人やご家族様からの情報や言葉から要望を得ながら、自己決定できるよう働きかけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	ひとり一人の生活のリズムを把握しながら、日々の過ごし方の希望に沿えるよう支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時は御本人の洋服を選んでいただき、化粧品や洋服など、職員やご家族様の協力を得ながら支援している。			

ふれあいの里 グループホーム とみおか

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力に応じて片づけ等のお手伝いをしている。御本人に役割を持っていただくことにより日々の生活の活力となるよう支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は専任の管理栄養士が作成している。医師の指示のもと塩分、水分の制限がある方など個々により味付けなど調整を行いながら対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご本人の能力に応じて、毎食後口腔ケアの支援、義歯の洗浄も行っている。また、週1回訪問歯科の診療があり、職員が口腔ケアの指導を受け入居者の口腔ケアに生かしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ひとり一人の排泄間隔に合わせてトイレ誘導や声掛けを行っている。排泄のリズムを把握しながら支援に役立っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄パターンを把握しながら、運動量や水分量にも気を配りながら便秘予防に努めている。状況に応じて主治医に下剤の調整、対応を求めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴表により、個々の体調、希望に沿って入浴していただいている。入浴を拒否される場合も声掛けやタイミングにより、入浴していただけるよう心掛けている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の就寝時間に合わせ、休みたいときに休んでもらっている。寝つけない時など飲み物や職員が話し相手になるなど安心してお休みいただけるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局より処方されている処方箋は、職員全員が把握し、副作用についてもその都度周知している。個々の用量についても、表で示しており、服薬の際、確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好きなことや趣味など続けられるように支援を行っている。それぞれ可能な限り役割を持っていただくようにしている。数名の方に食器拭きをお願いしている。		

ふれあいの里 グループホーム とみおか

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望がある限り、必要な買い物など近所のスーパーなどへ職員と共に外出の支援を行っている。ご家族宅へ外泊などの御協力もいただいている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は基本的にホームで行っている。御本人や、御家族様より希望がある際には、書面に記入していただき、本人に管理をお願いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族様との連絡も取り次いでおり、定期的に知人との手紙のやり取りを行っている方もおられる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間までの空間が広々としており、どこからも見渡せるようになっていいる。居室の間にトイレがあり、入居者が安心して移動できるような造りになっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々で過ごす時間を大切にしながら、関わりを持ちながら交流を深めることができるよう支援している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に、本人とご家族様と相談しながら、使用していたものや好みの物を持参いただいている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーに対応しながら、入居者様が安全に移動できるよう各所に手すりを設置し、トイレ内も車いすが使いやすい作りとなっている。		

目標達成計画

事業所名 ふれあいの里 グループホームとみおか

作成日：平成 25年 1月 4日

市町村受理日：平成 25年 1月 9日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6	「身体拘束マニュアル」が新しくされてから、全職員に配布、周知されていない。	「身体拘束マニュアル」の内容を全職員に周知するため早急に事業所内で勉強会を開催する。	全体での開催は困難なため、各ユニットごとの勉強会を開催するよう早急に日程の調整を行う。	1か月
2	35	災害時の備品の準備が検討中であるため、最低限のものしか用意されておらず、不足の部分を補わなければならない。	法人との話し合いにより、備蓄品に対する内容を統一していくようにしていく。	ホーム内でも、必要品について徐々に揃えていけるよう心掛ける。	3か月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。